

〈原 著〉

シャンプー剤およびリンス剤使用時における ピロクトン・オラミンと界面活性剤の皮膚残留量

三浦千明*, 野口秀雄**, 笹井喬司***

Determination of the Quantity of Piroctone Olamine and Surfactants on the Skin After Treatment of Hair Shampoo and/or Hair Rinse

Kazuaki MIURA*, Hideo NOGUCHI**
Kyoji SASAI***

Abstract

The quantity of piroctone olamine (PO) that antidandruff reagent remaining on the skin after treatment of hair shampoo and/or hair rinse was determined by newly developed condition of high performance liquid chromatography.

The quantity of PO on the skin after using shampoo containing 0.75% of it was nearly equal to that of after using hair rinse containing 0.3% of it. And this quantity of PO on the skin was increased additionally by treatment of PO containing hair rinse after using of shampoo containing PO.

要旨

シャンプー及びリンスに配合されたフケ、カユミ防止剤ピロクトン・オラミンの皮膚残留量を新たに開発した条件で高速液体クロマトグラフィーを用いて測定した。

ピロクトン・オラミンの皮膚残留量は0.75%配合されたシャンプーと0.3%配合されたリンスではほぼ同じであった。残留量はピロクトン・オラミン配合シャンプーで洗髪後ピロクトン・オラミン配合リンスを使用すると相加的に増加する。

が広く普及している割には一回の洗髪に使用される両剤の量やすすぎ液量といった洗髪行動の実態が必ずしも十分に調査されていない。また、その使用状況の下での各洗髪剤の訴求効果発現の手がかりとなる配合成分の皮膚残留量との関係を検討した例も少ない。

本報においてはまず成人男女100名を対象として面接によるアンケート調査を実施することにより洗髪行動の実態を明らかにした。次いで調査結果に基づいて決定した平均的条件及び極端に高濃度、長時間接触する条件で洗髪し、その時のシャンプー剤並びにリンス剤配合成分の皮膚残留量を測定した。同時に皮膚残留